



炎の戦士

# 大谷晋二郎

## 大谷 晋二郎

(おおたに・しんじろう)

1972年7月21日生まれ、山口県山口市出身。プロレスラー。プロレスリングZERO1所属。高校からレスリングで鍛え、1992年2月に新日本プロレスに入門。同年6月25日、天山広吉戦でデビュー。当初より熱く激しいファイトスタイルを身上とし、史上ハイレベルと言われる当時の新日本ジュニア戦線でも中心選手として活躍。1997年には第5代ジュニア7冠を獲得。2001年、本格的にヘビー級に転向し、武藤敬司と行動を共にするが、新日本を辞めて橋本真也が旗揚げしたZERO-ONEに移籍。2005年にはZERO1-MAXを発足して代表となる。現在もZERO1のリングで熱きファイトを展開し続けている一方で、子どものいじめ撲滅、青少年育成のための活動に尽力しており、「一所懸命」の精神のもと、リング内外で闘い続けている。

「ファン時代、ボクは汚いヤジを飛ばしてるお客さんを何人か外に連れ出したことがあるんですよ。『プロレスをバカにするなら出て行ってくれ!』って」(大谷)

ガンツ 玉さん! 今回のゲストは寒さを吹き飛ばす、熱い男が来てくれました!

玉袋 Show大谷なきあと、大谷さん」と言えばこの人だからね!

大谷 えっ、Show大谷さんってどうかされたんですか?

ガンツ いえ、全然健在です。RIZINのバックステージとかでウロウロしてますから(笑)。  
というわけで、今回のゲストは大谷晋二郎選手です!

大谷 よろしくお願います! 玉さんとはボクが新日本時代にサムライTVで対談させていた  
だいた以来だと思っんで、20年以上ぶりですよね。

玉袋 もうそんなに経つか。じゃあ、まずは乾杯しよう。乾杯!

一同 カンパァー!

(※大谷がジョッキのビールを一気に飲み干す)

ガンツ 大谷さんはこの飲みっぷりからして、ちゃんと昭和のレスラー像を受け継いでますよね。  
大谷 たしかにいまは飲まないレスラーが多いんですよ。飲む選手は飲むけど、飲む人と飲ま  
ない人で分かれますね。

椎名 昔の新日だと「飲まない」っていう選択がないというか。「飲めません」なんて言ったら何  
事かっていう世界で(笑)。

**ガンツ** 山本小鉄さんなんか、「練習後にビールを飲んで身体を大きくしろ！」って言うてたりして（笑）。

**玉袋** ビールがプロテインがわりなんだから！

**大谷** ただ、新日本の新弟子時代は言うほど飲んでたっていう記憶があまりないんですよ。とにかく雑用に追われてたんで。巡業に行ったら若手はまずコインランドリーを探して、先輩のコスチュームや練習着を洗濯するっていうのが第一だったんで。コインランドリーがないときは夜中に民家で洗濯機を借りたこともありますからね（笑）。

**椎名** 夜中にプロレスラーが「洗濯機貸してください」って訪ねてくるって凄いですね（笑）。

**大谷** でも、「洗濯できませんでした」っていう選択肢がないんで、何がなんでも洗濯するしかないんですよ。乾燥機が足りなかったら、ホテルのボイラー室を開けてもらってそこに干したりとか。

**ガンツ** 大谷さんが新人の頃って伝説的に厳しい時代ですもんね。

**大谷** なので巡業先で、先輩に「飲みに行くぞ！」って言われたイメージがあまりないんですよ。とにかく毎日、洗濯に追われていた記憶ばかりで。我々の時代は洗濯機も全自動じゃなくて、洗濯と脱水が分かれた二層式だったので、目を離せないんですよ。誰かがいないと盗まれたら大変ですから。

**ガンツ** もし先輩のコスチュームが盗まれたら……。

**大谷** 考えただけでも恐ろしいですよ（笑）。だから若手は2人以上で洗濯に行って、交代でコン



ビニに行ったりとか。

**玉袋** 待ってる間、ボロボロの4週遅れの『ジャンプ』かなんかを読んだりしてな(笑)。

**ガンツ** では、あらためて大谷さんのこれまでの歩みを振り返りたいんですけど。レスラーになる前は、山口県でも有名なプロレスファンだったんですよね？

**大谷** もう大好きでしたね。ボクは山口県山口市出身なんですけど、ボクの中ではプロレス＝新日本プロレスだったんですよ。で、新日本が山口に来るのは年に2回しかなくて、とにかくその2回を心待ちにして。いまは厳しくなってますけど、当時は街中にポスターが貼ってあったじゃないですか。

**椎名** いまは貼っっちゃダメなんですか？

**大谷** ちゃんと許可を得たところじゃないとダメなんですよ。

**椎名** そうなんだ。あれが貼つてるとワクワクし

ましたよね（笑）。

**玉袋** そうだよ。気持ち盛り上がってきてな。俺なんか街角に貼ってあった全女のポスターをひっぺがして、そこに小さく載ってる小人プロレスの写真を切り抜いてさ、下敷きに入れて学校に持って行ってたからね（笑）。

**ガンツ** 普通はアイドルの切り抜きとか入れるもんですよね（笑）。

**玉袋** だけど俺は筋金入りの小人プロレスファンだったから（笑）。

**大谷** あの当時は、大会が近づくとも市内を宣伝カーが走っていたんで、ボクは宣伝カーを見かけたら追いかけて行って、声をかけてポスターをもらったりしていたんですよ。そのとき、営業の飯倉さんという社員の方に「当日は盛り上げてくれよ！」って言われたんで、会場では第1試合から大声を張り上げて応援ですよ。「山口で盛り上げないと、来てくれなくなったら困る！」と  
思ってた。

**玉袋** いいねえ（笑）。会場の空気は俺が作るっていうね。

**大谷** だからボクは汚いやジを飛ばしてるお客さんを何人か外に連れ出したことがありますからね。

**ガンツ** それは新弟子がやることですよ！（笑）。

**大谷** ボクが中学生か高校生くらいのと看で、「なんだこのクソガキ！」ってなるけど、「いや、プロレスをバカにするなら出て行ってくれ！」って。

**玉袋** その気持ちはわかる！ プロレス原理主義者だな。俺はたけし原理主義者だし。一緒、一

緒(笑)。

**大谷** とにかく盛り上げたい一心でしたね。

**玉袋** それは営業の人たちもうれしかったと思うよ。

**ガンツ** 新日本の営業の人の間では、有名な子どもだったんですね(笑)。

**大谷** 当時は飯倉さんのほかに、のちにZERO ONEで一緒になる中村祥之さんも営業の新人として山口に来ていて。会場では中村さんにも「おう、来たな！頼むぞ！」って言われてましたからね。

**椎名** すっかり顔も覚えられて(笑)。

**大谷** ボクは頭に鬨魂ハチマキを巻いて、首から鬨魂タオルを下げて、藤波さんと木村健悟さんがIWGPタッグ王者になったときの記念ジャンパーを着て、脚にはなぜかシューティングレガースをハメるといふ、そういう姿でしたから。

**ガンツ** ひと目でわかると(笑)。

**椎名** でもIWGPタッグ王座奪取記念ジャンパーって、そんなのあったんですね(笑)。

**大谷** 胸に「F」って入ってる藤波さんバージョンと、「K」の木村さんバージョンが、それぞれ250着ずつ限定販売で。

**椎名** そこは当然、「F」がほしいですよね(笑)。

**大谷** いや、ボクは木村健悟派だったんですよ。

**椎名** 初めて会いましたよ、木村健悟派(笑)。

「家も仕事もあてもなく上京してきちゃったんですね。

親の世話になると『大谷晋二郎物語』的にはカッコ悪いということだ」(ガンツ)

ガンツ 藤波さんと健悟さんが、同時期にレコードを出したときも、健悟さんは『マッチョドラゴン』にセールスで完敗を喫して、怒ってましたからね(笑)。

椎名 「なんであんな『雑音』のほうが売れるんだ!」 ってね(笑)。

大谷 でも限定250着ずつの抽選販売だったので、「これは応募しなきゃダメだ!」 ってことで、ボクの兄貴は「F」、ボクは「K」を応募したら、2人とも当たったんですよ。「やったぞー!」  
って(笑)。

玉袋 それ、大谷兄弟以外、誰が応募したんだろうな?(笑)。

椎名 兄弟揃って、応募第1号かもしれない(笑)。

大谷 で、そのジャンパーを着て会場に行つて。いまだから言えますけど、スーパールのノボリを盗つてきちゃつて、その布の部分だけ「がんばれ! 最強軍団 新日本プロレス」みたいな自作のものに変えてね。

玉袋 「世界一強いアントニオ猪木」みたいなヤツね(笑)。

大谷 第1試合から入場口でそのノボリを振つて応援してましたから。

玉袋 最高(笑)。

**椎名** それは一番有名なファンになりますよね（笑）。

**玉袋** それのちに若いボーヤとして入ってくるんだから凄いやなあ。

**大谷** それで高校卒業後、プロレスラーになるために上京するんですけど、親の反対もあって、お年玉を貯めた5〜6万円だけ持って、半ば家出同然で出てきたんですよ。母さんは最後までダメだったんですけど、親父は「じゃあ3年だけ行ってこい。その間、仕送りはするからな」って言って。でも東京に出てきて仕送りしてもらっていたら、のちのち話すときにカッコ悪いじゃないですか。ボクの中で物語を作っていたんで。

**ガンツ** レスラーになってから『大谷晋二郎物語』を語る上で、「仕送りしてもらいながらレスラーを目指した」じゃカッコ悪いと（笑）。

**椎名** 以前、菊田（早苗）に話を聞いたときも、それを凄いや恥ずかしがってましたよ。オーストラリアに格闘技修行に行くお金を親に出してもらったことを「そんなに恥ずかしがる？」って言うくらいに（笑）。

**大谷** だからボクは親父に言ったんですよ。「父さん、ちょっとそれはやめてくれ。俺はひとりでもやりたいから、お年玉で集めたこの5〜6万で行く」って。でも、そこで親父の一言があったんですよ。「子どもを心配する親の気持ちも少しはわかれ！」って。

**玉袋** そりゃそうだよ。ホントなんだよ。

**大谷** それで当時は新幹線のぞみがなかったから、山口から行くと東京に着くのはもう夜なので、「初日の宿だけ面倒を見させろ」って言われたんですね。ウチの親父は昔、東京に住んでいたこと

があるんですよ。早稲田大学を出てるんで。

**玉袋** 早稲田まで出て、息子が「プロレスラーになる」って言うてきたら、「バカヤロー！」って思っただらうな(笑)。

**大谷** それで初日は、親父が予約してくれた五反田のホテルに泊まったんですけど、翌日チェックアウトしたら手持ちの5、6万があるだけで、もう家も仕事もないわけですよ。

**ガンツ** 家も仕事もあってもなく上京してきちゃったんですね(笑)。

**玉袋** ネットがねえ時代だしな。

**大谷** この話をするに「大変だったねえ」って言われるんですけど、当時を思い出してみても、ボクはもうワクワクしてるんですよ。

**権名** そりゃそうですよ。冒険だもんね。

**大谷** プロレスラーはそうやってひとりです苦勞してなるものだと思っただけで、でも最近の入門希望者は、入門テストにお母さんやおばあちゃんや同伴で来たりするんですよ。

**玉袋** おいおい、やめてくれよ！

**大谷** それダメとは言わないし、親御さんも心配なのかもしれないけど、我々の時代じゃ考えられない(笑)。で、ボクの場合はまず住むところを探そうと、いろんな不動産屋を回って「とにかく安いところで、雨風しのげればいいです」って言ったんですけど、かならず「保証人は？」って聞かれたんですよ。でも、ボクの中では親が保証人になるのもダメなような気がしたんですよ。